潮風

平成9年7月20日発行（年2回刊）
〈教育後援会だより〉
しおかぜ
発行／明海大学浦安キャンパス教育後援会
〒279　千葉県浦安市明海8
電話 047-355-5112　FAX 047-355-5117

評議員会開催
学生への援助をさらに厚く
1997年度の事業計画、予算を承認

5月25日（日）、浦安キャンパス新研究棟3階会議室で1997年度教育後援会評議員会が開かれた。全国から参加した約60名の評議員が一堂に会して、今年度の事業計画や予算案について審議を行った。

開会に先立ち、本学の創立者である宮田慶三郎理事長の訃報が伝えられ、全員で黙とうを捧げた。そして、外国語学部長代理の高倉翔教授が大東百合子学長のメッセージを読み上げ、来年度に大学院を設置することにふれて、「私学は冬の時代といわれているが、自信をもって独自の道を切り開いていく。そのためには教育後援会の助言やバックアップが必要」と挨拶をした。

会議は、大学側から今年度の学年暦、入試状況および昨年度卒業生の進路などについて報告の後、審議に入った。まず、加藤想士会長をはじめ新年度の役員を選出し、1996年度の事業報告と決算報告が行われ、1997年度の事業計画案と収支予算案が発表された。

今年度は大学間協定による学生交流に伴う派遣学生に対して、40万円を限度として費用を補助する事業が新規に予定されている。また、授業料の半額を補助する教育後援会奨学金を、留学生にも貸与できるよう返済方法を見直し、予算を増やしている。好評の地区父母懇談会は、昨年同様大学周辺と、東北、北陸、東海地区の4カ所を予定している。

本年度の収入は会費などで1億7216万円の見込み。支出は教育後援会だよりの発行、地区父母懇談会の開催など、組織対策費として2600万円、学園祭の援助、学食の補助など全学行事援助費、教育・研究補助、部活動への補助、就職対策行事への補助、学生交流留学生への補助など学生関係対策費が1億950万円（昨年9千470万円）と、学生に対する援助がさらに厚くなっている。この他に会議費550万円、管理費1千780万円、学生会館の建設資金の積立金として1000万円、予備費を含め、合計1億7216万円が計上された。

明海大学創立者 宮田慶三郎理事長逝く

明海大学創立者、宮田慶三郎理事長が、5月22日、午前11時50分、肺炎のために逝去された。享年91歳。

故前理事長には、平成8年1月号、新春対談にご登場いただき、ご自身の生い立ちや大学の在り方を語っていただきました。その一文をご紹介いたします。

「小学校の頃、牧舎の一部で、よく学校ごっこをしておりました。当時は学校の先生になりたいと思っていたんですよ。しかし実際に学校をでてからは、皆さんもご存じのとおり歯科医師となり、その後実業界におりましたが、教育への夢は常に抱いておりました。

そして（中略）昭和45年明海大学の前身である城西歯科大学を設立した訳です。

しかし、私立大学というのはひとつ特徴がなければなりません。すなわち建学の精神です。……」

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

宮田慶三郎先生を偲んで
最後となった対談の回想
前会長　丹下　剛

6月初旬、教育後援会会長の交代に伴い、加藤新会長と渋谷区代々木に宮田侑理事長を訪ねました。その時、理事長から「宮田慶三郎初代理事長は御孫さんらご家族に囲まれ、一家団欒のさなかに安らかな眠りにつかれた」と伺い、正に天寿をまっとうされて、幸せな御生涯であられたと思います。思い起せば、初代理事長には一昨年晩秋にお会いしたのが初めてであり、そして最後ともなりました。翌正月の「潮風」の創刊号に新春対談を企画し、その収録が目的でした。色白の、笑顔が大変印象的で、反面、気骨ある教育者の風格に接し、対談時の緊張感が今でも伝わってくる思いです。大変能弁であられ、予定の時間を大幅に越えましたが、当方の希望に沿って「潮風」の題字を喜んで書いて下さいました。90歳の元気な御姿が創刊号の巻頭を飾ることとなり、題字はこれからも生き続けることでしょう。このように、先生は教育界の多大な御業績に加え、卓越した書画と文学の才能を示す沢山の作品を残されております。頂いた達筆なお手紙には常に、調和した美しい花が描かれて、気品が漂っていました。元気な御姿を最後に収録した新春対談全文と、ご丁寧なお手紙を大切に保存し、御冥福をお祈り致します。

本誌題字「潮風」を手に

丹下前会長が名誉会員に

2年間にわたって教育後援会の会長を務めた丹下剛さんが、教育後援会の名誉会員に推薦され、満場一致で承認された。

〈1997年度新役員〉

▽会長／加藤想士▽副会長／秦誠三、小林由美子、新井敏男▽会計／軽部節子▽常任幹事／山田由美子、鈴木久子▽幹事／清藤信雄、神嶋博、金子秀行、松井恵子、芝野日出男、佐藤一生、稲葉光治、大塚久美子、木村俊雄、泉沢千代子、峯村庸子▽監事／若山照夫、山岡達哉

＝敬称略＝

翔け21世紀へ
―明海大学の基盤と飛躍、発展を願って―
教育後援会会長　加藤想士

本学の創立者であり、日本の教育界、歯学教育に多大な功績と足跡を残されました宮田慶三郎前理事長が、5月22日、肺炎のため、91歳でご逝去されました。先生のご冥福をここに教育後援会一同衷心よりお祈り申し上げます。

先生は、1970年に城西歯科大学を創立され、建学の精神である「国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成をめざす」を大学の理念として掲げられ、1988年に大学名を明海大学と変更、開校以来7369名の卒業生を社会に送りだされてまいりました。同窓生は全国各地で先生の教えの明海精神で社会に貢献しております。

21世紀まであと4年を残すのみとなり、明海大学も大切な時代を迎えています。

大学も新理事長に宮田侑先生が後継者として就任され、更なる発展と基盤づくりのために、先生の限りない情熱と卓越した見識でこの時代の難局をきり開いていただけますことを確信いたしております。

この新世紀を迎えるにあたって、教育後援会も学生教育、研究、環境、施設面などの充実改善と総合教育力体制の推進のために宮田理事長、大東学長を中心に全学一体となって努力していく所存です。

そのためにはまず第一に学生と父母の声を十分に伝達、理解いただき、明海生には卒後教育、研修を含め、社会に通用する人材の育成をこれまで以上に願っております。

時代は少子化、高齢化、国際化、情報化と確実に変革し、国も教育界も色々な教育改革を提言推進していきますが、21世紀はハード（物）の時代からハート（心）の時代となります。子供・学生・人類・地球も悪い環境に簡単にそまり、こわれやすくますます弱くなっていきます。明海大学は全教職員あげてカウンセラー体制を構築し、支柱としてください。

21世紀と世界の教育の中心は必ず生命教育と健康教育になります。良識ある生命観と健康観が人格を形成し、社会と世界のモラルとなります。人への思いやり、地球への思いやりもこの良き生命観と健康観が明海生の世界観の中心となるはずです。どうぞ先生方は「人生の糧となる生き生きとした感動と生命観」を学生に与え続け、明海精神の一つとして育成していただければと思います。

第二に「魅力ある大学づくり」の支援ですが、昨年、丹下前会長を中心に、アメリカの大学視察研修により21世紀へ向けての報告書で五つの提言をしました。

（1）学生会館の建設
（2）学生寮の建設
（3）国際交流の推進
（4）高度情報処理（パソコン利用）の充実
（5）浦安キャンパスにおける大学院の設置

以上五つの提言をもとにバックアップし、21世紀へ翔く明海大学を教育後援会一同願っております。

懇親会で教職員と交流

評議員会終了後、会場をレストラン・ニューマリンズに移して、懇親会が開かれた。今年度の会長に選任された加藤想士さんが「保護者と学生の声をいかに学校側に伝達するかを、新執行部の課題にしたい」と抱負を述べ、岡本長吉名誉会長の乾杯で宴がスタート。この頃には新しく評議員に加わった16人もすっかり雰囲気にとけ込み、なごやかな歓談が交わされた。

そして、4年間役員として活躍し、無事任期を終えた丹下剛さん、川口一郎さん、内藤征男さん、大竹キヌ子さん、小畑美恵子さんの5人に感謝状が贈られた。教育後援会の名誉会員となった丹下前会長は「4年間があっという間に過ぎてしまった。今後も教育後援会から経営者や教師に働きかけて、明海大を素晴らしい大学にしてほしい」と新役員に激励の言葉を述べていた。

評議員に聞きました

大学に、教育後援会に望むことは？

5月の段階で教科書がそろわないものがあるそうです。日本になかったり、部数が足りないらしいのですが、先生が教科書を選ばれる時に、ちゃんと手に入るものかあらかじめ調べておいてほしい。購買の方も少し早めに仕入れるとか、工夫できないものでしょうか。（女性）

先生の中にも必ず遅刻をしてくる方がいらっしゃるようです。学生たちも「やる気をなくす」といっています。（女性）

3年生の娘が現在中国に留学しており、来年の3月に帰国の予定です。今年から就職協定が廃止になり、3年生の11月くらいから、企業を選び、コンタクトを取った方がいいとのことでしたが、子どもが日本にいない場合、どうなるのでしょうか。親が代わりに動くのであれば、就職に関する情報はどうしたら得られるでしょうか。（男性）

インターネットで企業が就職情報を提供しているようですが、家にパソコンがありません。学校で情報を収集して流すなどしてもらえないだろうか。（女性）

資格取得講座の募集や、就職ガイダンスの日程は親にも情報を送ってほしい。いつ頃から就職の話をしたらいいのか、タイミングがよくわからない。学校からの情報があればそれをきっかけに、子どもと話すこともできる。（女性）

就職の相談は親も入れて3者でやったらどうか。子どもがいろいろと模索している時、親も一緒になって考えてあげたい。（女性）

地区懇談会はたいへん有意義だと思います。特定地域だけでなく、全国、全学年を対象にやってほしい。（男性）

評議員を体験して

評議員会に参加して

稲葉芳雄（茨城県）

娘の大学への入学と同時に教育後援会の評議員に推薦され、四年目を迎えました。今まで過去三年間、評議員会総会に参加させて頂き、その中で、教育後援会の存在が大学と学生のために非常に大きな支えとして活躍されていることを知り、娘を大学に学ばせている親として、また教育後援会の一員として大変嬉しく思います。教育後援会がこのようになるまでにはいろいろと難関があったろうと推察されますが、発足当時の旧役員の方や、それを引き継ぎ発展させてきた後任の役員の方の苦労と努力、また大学側の深いご理解があったからこそ、充実発展してきたものと思います。

今後二十一世紀を間近に迎え、増々国際社会になるにつれ、日本の教育についての転換が叫ばれております。しかし教育制度がどういう状況に変わっても、学ばせる親と大学側が一体となって、学生の学びやすい環境を作ってやることは必要なことだと考えます。教育後援会の増々の発展を祈ります。

明海ワールド

大橋保彦（東京都）

評議員を、の電話に思わず「抽選で当たっちゃったんですか！」と、とぼけた事を言ったのが昨日のことのようです。

評議員会では息子の事、娘の事、大学の事を思う真剣なまなざしのご父兄が、委員として日本各地より集まり、有意義な質疑応答が行われます。思いもかけず、一員にさせていただき、明海の風のようなものを感じることができ、感謝しております。

とにかく、明海の風は明るいのです。学生たちが、のびやかなのです。大学が新しいせいでしょうか…環境がそうさせるのでしょうか…。

今ひとつ、知名度が低いと言われたりもしますが、その分何かにつけプレッシャーも少なく、思わぬ番狂わせがおこったりもします。リラックス、マイペースで前進できるなんて最高です。

これからの明海の、明海らしい、明海ワールドを楽しみにしています。

教育後援会への期待

山口道昌（静岡県）

息子が明海大学にお世話になり、はや四年目を迎える事ができました。評議員として何の活動もできませんでしたが、教育後援会が学長をはじめ、諸先生方と共に明海大学の将来を大きく見つめ歩んでいる事を深く感じる事ができました。昨年、東海地区の地区別懇談会を初めて静岡で開催していただき、大学がただ学生を受け入れているだけでなく父母にとっても大学の教育方針、環境、学生生活等を聞く中で大学を身近に感じる事ができました。このような教育後援会の着実な活動が、地域に大学の名を浸透させていくものと思います。これから明海大学の卒業生が社会に大きく羽ばたき貢献していく事を期待致します。

凛々しく生きる

松井春夫（埼玉県）

記憶力が劣る私は、必ずしも希望する大学や職種に就けなかった。しかし、社会は学校教育では点数で表せない才能、すなわち協調性、迅速さ、明朗、几帳面、企画力、勇気、判断等が評価されることが分かった。

最近、エモーショナル・インテリジェンスなる研究が注目されている。これは、自分自身の感情を理解、他者に共感、感情をコントロールするなど好ましい人間関係を築く能力である。IQに対しEQで表現されているが、社会人としての能力評価として的を射ており、これらは努力により得られるものである。

私自身を回顧しても、20代の教育は、教師を離れた自分自身の教育期間にほかならない。イヴ・サンローランは洋服を20回も縫い直し、ピカソは80年間にわたり1日3点の製作する努力をしていると言う。積極的に、努力する生き方は若さを持続する道と考えている。

これが息子に贈る言葉である。

ごあいさつ

大東百合子学長

去る五月二十二日、明海大学の創立者宮田慶三郎理事長先生がご逝去になられましたことは、先生が卒寿を越えられ、天寿を全うされたとはいえ、悲しみと寂しさに耐えません。教育後援会の皆様とともに心からご冥福をお祈り致します。

先生は二つの歯科大学を創設され、その二つとも総合大学化され、その上建学の精神に謳われている国際化を研究面でも教育面でも実践され、成果を上げて来られました。また優れた後継者と協力者に恵まれ、いわゆる「冬の時代」を迎えている大学の将来に光が見えてきています。先生としては、ご自分のなすべきことを成し終えて、思い残すことなく、後事を信頼できる方々に委ねて旅立たれたようにも思われます。私どもからいえば寂しく悲しい別離ではありますが、先生にとってはお幸せな旅立ちでおありだったのではないでしょうか。

宮田慶三郎先生が教育に、研究に、意図されていた多くの事業が、教育後援会の精神的・物的両面でのご支援によって実現されあるいは一層の成果をあげることが可能になった事例は枚挙にいとまありません。先生の御霊も喜んでおられることでありましょう。大学の教職員・学生一同に代わり、私からも厚く御礼申し上げます。

教育後援会のご支援によって、学生のための施設・設備が充実し、学生生活に豊かさと潤いが増してきているように思われます。ことに最近は海外研修派遣学生や本学への外国人留学生への財政的補助のような、国際化時代にふさわしいご支援を頂いていることは、大変ありがたいことで、教職員・学生共々に建学の精神の具現へ向けて大きな励みになります。

また、学生のためのいろいろな行事へ教育後援会の役員の方々、父母の方々が参加、父母の方々が参加、あるいは話し合いに加わってくださることは、教職員と学生との間に新しい人間関係を作りだす一つのきっかけになり、これも大変ありがたいことです。私どもとしても、なるべく多く父母の皆様のご意見・ご要望を伺う機会を設けて、明海大学を勉学の面でも、課外活動や人間関係の面でも、「魅力ある大学」に発展させるための、お知恵を拝借できれば、と思っております。

今年から就職協定がなくなって、それに応じて採用の仕方を変える企業もあり大学としても、企業の方針に詳しい先生方や就職指導課の職員がフル回転で採用先の開発や学生に対する就職活動の指導や相談にかかりきっていますが、いろいろ戸惑いのあることは否めません。しかし全体としては昨年より見通しは明るいようだと言われていますし、そうであることを願っています。

Campus watching

コンピュータルーム

講義棟6階に200台のパソコンを備えたコンピュータルームがある。1部屋に50台ずつ、4部屋に分かれている。200台のパソコンはLANで結ばれており、電話回線を通じて世界にもアクセス可能だ。

もちろん授業が優先されるが、空き時間はオープンルームとなり、学生が自由にパソコンを使える。

「最近は、4年生がインターネットで就職情報を引き出したりしていますね」と、同ルームを管理している教務課・肥後昌邦さん。ただし、授業の課題を仕上げるために利用する学生が多く、すぐに使えないこともあるようだ。また、使い方を教えてくれるわけではないので、全くのビギナーでは、利用は難しい。「友だち同士で教え合っているみたい」と肥後さん。

不動産学部で情報処理基礎演習を担当する林亜夫先生は、「パソコンを使いこなせる生徒はまだ少数派。基礎を学ぶ授業を受けて、とにかく使ってみること。将来、道具として自分の研究や仕事に生かせるようになるといいですね」と話す。

英米語学科の渡辺雅仁先生は、英文で書いた自己紹介文をインターネットのホームページ上に作った掲示板に載せるという、ユニークな授業を行っていた。

まずはパソコンで何ができるのか、オープンルームで体験してみては？

実感のある援助がほしい

活発な意見交換ができた留学生との懇談会

6月14日（土）、不動産学部棟3階会議室で、教育後援会役員と外国人留学生の懇談会が行われた。現在本学に在籍する外国人留学生は300名を越え、今年6月には留学生の自治団体「留学生連合会」も発足した。経済的に厳しい状況に置かれている留学生への援助は、教育後援会のテーマのひとつでもある。今回は、留学生連合会の宋会長をはじめ、中国、台湾、韓国、マレーシアと4カ国の留学生の代表10名と、加藤会長以下教育後援会役員、国際交流委員長の杉山先生、中国留学生会顧問の樋口先生、川田国際交流課長らが出席。卒業を目前にした4年生と懇談していた過去2回と違い、留学生が抱える切実な問題が提示され、今後の援助を考える上でたいへん参考となった。

留学生の意見反映して　奨学金制度スタート

加藤：教育後援会では、これまでに2回、みなさんの先輩の留学生と懇談会を行いました。その中で出された「留学生は教育後援会の援助を受けている実感がない」との意見を反映して、奨学金の貸与制度が留学生にも適用されるようになりました。授業料の一部を貸与するというもので、完璧なものだとは思っていませんが、みなさんはこの制度をどう思われているでしょうか。具体的な話を伺いたいと思います。

何：奨学金の貸与制度ができたことは、感謝しています。しかし、留学生は在学中に返済しなければなりません。経済的に困っているから奨学金がほしいのに、その年のうちに約36万円を返済するのはとても苦しい。日本人学生と同じように卒業してからの返済にしてもらえないでしょうか。

小林：奨学金の返済方法についてはいろいろと議論しました。留学生のみなさんが日本で就職するなら、それも可能だと思います。でも、自国に帰ったら物価の違いから、かえって返済が大変ではないですか。

何：では、返済しなくてもいい奨学金を作ることはできませんか。

司会：特待生制度のような、成績が優秀な学生への奨学金のことだと思いますが、この制度ではすべての人が該当するというわけではありません。経済的に困っている人を援助するという趣旨から考えれば、現在のような制度となるのではないでしょうか。

樋口：留学生たちは、日本は物価が高く、経済的に厳しいことは承知の上で来日しているわけです。しかし、急にアルバイトを辞めさせられたり、病気になった時のことを考えると、返済しなくてもいい奨学金があれば心強いというのが本音だと思います。

生活に密着した援助を

秦：住宅の面ではいかがでしょうか。学生寮を望む声もありますが、建設の予定はないようです。現在、教育後援会では20戸の民間賃貸住宅を借り上げて、安い家賃で学生に提供しています。でも、これは入った人だけメリットがあり、公平ではないという意見もあります。家賃補助という形ではどうでしょうか。

宋：家賃補助なら、日本人学生も受けられてよいと思います。ただ、留学生はアパートを借りることが大変難しい。だから、借り上げ住宅も増やし、留学生を優先して入れてもらいたいと思います。

司会：教育後援会はいろいろな援助をしていますが、知っていますか。

何：教育後援会の援助が、本当に学生に届いているのでしょうか。例えば、学食で出されるサラダと牛乳の半額を補助していただいていますが、サラダを食べない人もいます。メニューの値段から一律100円引いたらどうでしょうか。

陶：学校内の売店も、外のコンビニと同じ値段です。安くできないでしょうか。消費税分を補助してもいいと思います。

涂：本学には、日本語を学んでいる別科の学生もいます。私も別科で勉強しましたが、補助もなくいちばん苦労しています。彼らは生活費を切りつめるために弁当を持参し、売店の電子レンジで温めて食べます。しかし、昼時忙しい時間帯は、売店の人もいい顔をしません。別科のために電子レンジを用意してもらえないでしょうか。

川田：電子レンジについては早急に調査して、対処したいと思います。

日本人学生との交流の場を設けたい

王：日本に留学することはたいへんですが、有意義な体験ができれば私にとっていい思い出になります。しかし、日本の文化にふれたい、日本人の友だちをつくりたいと思っても、アルバイトばかり…。授業以外にも、学校内で日本語や文化にふれるような環境作りを援助してほしい。

小林：特に日本語学科の学生は、「留学生に日本語を教えてあげる場を作れないか」という話をしていました。もっと交流をしたいと考えているようです。でも留学生同士でグループを作り固まっているのでなかなかその中に入り込めないということも聞いています。留学生の方も日本人学生に心を開いてほしいですね。

樋口：留学生と日本人学生がそう考えているなら、大学の教室などを使ってやってみたらいいと思う。その出会いの場を用意したり、情報を提供するのは学校や父兄が手伝ってもいいですね。

張：家賃を安くあげるために2、3人でアパートを借りており、家で勉強できません。学校の図書館を利用したいが、開館時間が短い。もっと長くしてほしい。

李：留学生の就職に関する情報を流してほしい。留学生を採用したいとか、日本の企業で中国や台湾に支店を作ろうとしているというような情報は、ぜひ教えてほしい。

司会：短い時間でしたが、いろいろな意見がでました。教育後援会も大学側も、しっかりと頭に刻み込みました。しかし、すぐに解決できないこともありますから、これからも話し合いを続けていきたいと思います。

（司会：近江学生課長）

〈留学生出席者〉

李　名揚さん（中国）不動産学部3年／陶　寅さん（中国）不動産学部4年／宋　杰さん（中国）不動産学部4年／涂　勤敏さん（台湾）経済学部4年／王　湘華さん（台湾）経済学部3年／孫　得漢さん（韓国）不動産学部3年／張　銀淑さん（韓国）外国語学部・日本語学科3年／金　希子さん（韓国）外国語学部・日本語学科3年／劉　譲傑さん（マレーシア）外国語学部・英米語学科2年／何　財添さん（マレーシア）不動産学部4年／タム・ボウ・ギョークさん（マレーシア）経済学部4年

VOICE　挑戦する4年間

経済学科
近藤桂太

明海大学にきて早くも3ヶ月たちました。私はもともと大学生活を有意義にすごすということが目標でした。その目標を少しでも達成させるため委員会に入り、サークルにも参加しています。これからも大学生活を有意義にするためにいろいろなことに挑戦し、自分を試していきたいです

英米語学科
須藤麻起

私は入試の日に初めて明海大学に来ました。本当のことを言うと、まさか明海に入学するとは思いませんでしたが、予想以上に友だちが増えて今は楽しい学生生活を送っています。今後は留学をしたいと考えているので、大学の授業で得た知識を活用したいと思っています。

経済学科
高橋雅博

私はこの大学に4月に入学しました。この大学に入ってやりたいことは色々とありますが、イベント実行委員というものをやっているので、色々なイベントを企画したいと思います。大学生は遊びだけというものではなく、自分は他にもやりがいのあるものを、4年間で残したいと思います。

不動産学部
武川麻里

不動産学部という特殊な学部をいかして、なんとか宅地建物取引主任者資格試験に合格したいと思う。それと、今所属している委員会をやり通したい。ここでは、仕事に対する責任感や他の人の意見、考え方を吸収して自分自身を磨いていきたいと思う。あとは4年間楽しければ最高だ。

経済学科
横田憲明

こういう事をいうのもなんなんですけど、実は僕、つい最近になるまで明海大学って存在すら知らなかったのです。ではなぜ僕が明海に入学したのかというと、偶然、僕の知人にいたこの大学の在校生からの話などから、受験・入学を決めました。

首都圏に数ある大学の中で明海はまだ比較的新進の大学ではありますが、「伝統」とかに縛られることなく、常にクリエイティブな明海生でありたいですね。

中国語学科
野村智子

中国語学科に在籍する以上の目標は、当然、ペラペラに会話ができるようになる！でしょう。

その後、就職に役立つかどうかは別として、教養として、身につけば良いのではなかろうかと、思っております。と思いつつも、夢は、スッチーか、中国人のお嫁さん。

経済学科
嶋本　進

私は今まで何をやったにしても中途半端だったような気がするので、大学の4年間では、何か一つでよいから自分は何かを最後までやったというものができればよいと思う。また、大学は、いろいろな人間と出会える場所なので、いろいろな人間と出会い自分の視野を広めていきたいと思う。

不動産学部
市川有希

私は、父が不動産の仕事を楽しそうにしているのを見て、明海大の不動産学部に決めました。

専門学校でなく、大学を選んだからにはより広い人脈を作って卒業していこうと考えています。そのため門限も破りがちですが、大目にみてもらい、友人を増やしていくつもりです。